

日本学術会議 薬学委員会
第 24 期・第 2 回 化学・物理系薬学分科会
議事要旨

日時 平成 30 年 5 月 10 日(木) 13:55~15:45
場所 日本学術会議 6-C 会議室
出席者 嶋田委員長、永次副委員長、佐治幹事、樋口幹事、井上委員、内山委員、
上村委員、寺田委員、徳山委員、真鍋委員、山縣委員
欠席者 尾野村委員、加藤委員、齋藤委員、長野委員
陪席 日本学術会議事務局

配布資料 第 24 期・第 1 回薬学委員会 化学・物理系薬学分科会 議事録
資料：土曜日・日曜日及び祝日における講演会・シンポジウム等の開催
について
第 24 期 薬学委員会 化学・物理系薬学分科会 委員名簿

議事

(1) 議題に入る前に前回の分科会に欠席され今回出席された先生より自己紹介が行われた。

(2) 前回の議事要旨の確認が行われた。

(3) 前回の会議で利用可能性を検討することとなった会議における Skype の利用に関しては、山縣先生の方から、3 名で使用したときは音声が悪く聞きにくく、1 名の時は何とか使用可能であった、という報告があった。これらのことから、LAN の状況が十分でない可能性が高いと推察されたが、1 度 Skype を取り入れた会議を試行してみることとなった。なお、Skype 使用において注意が必要な点もあり、使用時の留意点を周知することとした。

(4) 4 月の日本学術会議第 176 回総会の報告（佐治委員）

・山際会長及び 3 人の副会長から 2017 年 10 月～2018 年 3 月までの活動報告と第 24 期への検討依頼課題の説明があった。

・外部評価有識者から第 23 期 3 年目の日本学術会議の評価についての説明があった。主なものは以下の通りである。

1. 概ね高い評価がなされた。特に女性会員の割合を 30%以上に引き上げられたことが評価された。
2. 課題・問題点について：国際学術団体への貢献が必ずしも十分ではない。SDG（持続可能な開発目標）などへできるだけ貢献できるようにする。

3. 学問領域・地域等の壁を取り払ったシンポジウム等の開催を共同で行うことを推進すべきである。また、未来への投資として基礎理論・分析などをバックアップする。
 4. 提言に関しては、提言後のフォローアップも重要である。必要な人に確実に届ける努力が必要である。
 5. 地方においても活動を推進し、地方からの情報発信に期待する。
- ・ ジェンダーに関する分科会が第 2 部にはないため、2 部に作る要望があった。
 - ・ 8 月 5 日～6 日に福島でシンポジウムを開催予定。
 - ・ マスタープラン 2020 に向けて、提案を提出すること。
 - ・ 活動を分野横断的に進めていくことも考えること。

(5) 学術フォーラムについて

社会との関連で国民に興味の持たれる学問等についてそのトピックスや動向などをまとめ議論するものであり、ゲノム医療、AI などについて提案があったが、フォーラムとしては今一步そぐわないこともあり、今回は前向きには検討しないこととなった。

(6) 化学系・物理系分科会主催のシンポジウムについて

・ 前回の会議で、クライオ EM (と創薬) について行う方向になり、その後、初めクライオ EM を含めたシンポジウムを提案していた生物系薬学分科会は、行う予定のシンポジウムのテーマ「イメージング」の中からクライオ EM を除いた形で行い、クライオ EM については、こちらのシンポジウムに相乗りする形となった。また、化学部会の中の結晶学分科会の方も同様に本分科会の取組に相乗りする形となった。

- ・ 本年度開催のためには時間的余裕があまりないため、今回でまずフレームワークを形作ることとした。
- ・ 最初にクライオ EM のみを行うのか、それともその周辺も扱うのか、ということが提起されたが、クライオ EM のみでは、他のシンポジウムでも同様の講演者による同様のシンポジウムになってしまう恐れがあることから、周辺をも含めることとなった。
- ・ 構造生物学ということで考え、水素も観測できる中性子散乱はどうかという意見がまず出、次に NMR や自由電子レーザー (SACLA)、さらに AFM まで含めたらどうかという意見が出た。解像度や水素の観測が可能かという観点から、マクロからミクロへという傾斜をつけた方法論の取り上げ方を行うというまとめ方に気づき、AFM, クライオ EM、自由電子レーザー構造解析、中性子散乱構造解析でシンポジウムを行うのが相応しいのではないかということにまとまっていった。なお、創薬への応用の展望も含めていただくことにする。シンポジウムとしては、これまでの例から 13:00～17:00 の時間で 4 名から 6 名が適切ということから、まとめ役を井上先生にお願いし、以下のような講演者を候補とし、候補の先生に近い委員がそれぞれ依頼することとした。

AFM: 安藤先生

クライオ EM：岩崎先生、吉川先生

自由電子レーザー：岩田先生

中性子散乱：五十嵐先生、もう 1 名は加藤晃一委員にうかがう

時期は、CBI 研究会のクライオ EM 関連シンポジウムの時期との兼ね合いから本年度が望ましいと判断し、本年 11 月から 12 月を想定し、おおまかなご都合を候補の先生にうかがう、ということになった。依頼時には、旅費はほぼ保証するが謝金についてはカバーできない可能性も伝える。

講演会場については、可能日時を事務局に調べていただく。なお、土日開催に関しては、規定により 2 四半期前に決定して理事会にかけなければならないため、かなり困難であることがわかった。

シンポジウムでは、登壇者の半数以上が日本学術会議である必要があるため、座長等は当該委員が務めるほか、講演者が日本学術会議のメンバーであるかどうか調べる。

(7) 次回の分科会については、シンポジウムについて詳細な議論を行った今回の出席者ができるだけ参加できる日程を考え、6 月 21 日(木)15:00~17:00 に開催することに決定した。